

令和5年度第1回北九州市総合教育会議 意見まとめ

(◎：市長・教育委員共通、○：市長、●：教育委員)

1 2040年の姿

◎2040年には未知の職種に挑戦するであろう今の子どもたちに対して、我々が枠にはめない方が良い。

●「ウェルビーイングの実現」をわかりやすく示せるとよい。

2 こどもまんなか・ひとりひとりが主人公

◎「ひとりひとりが主人公」を実現するのは、簡単ではない。

○こどもが社会の構成員としてリスペクトされていることが大切。

●自分の人生を自分で生きるスキルとマインドの両方が必要であり、そのためには、社会に適応して生きていく力を身に付けることが重要。

3 こどもの意見の尊重、違いへの理解

◎子どもたちの思いを実現するには、多様性を尊重する環境が重要。

○多様性とは、外から「幸福」を定義されるのではなく、自分で決めること。本市は、多様性に対する包容力が強みである。

4 誰一人取り残さない学び

●子どもたちの特性に応じた幅広い支援は北九州市の特徴であり、さらなる充実に期待する。

5 レジリエンス

◎多様性のほか、レジリエンスも重要。「失敗力」や「苦悩する力」を身に付けるには、苦悩の中から次のステップに進めるような経験を積むことが必要。

◎1人で乗り越える力だけでなく、他人に頼る・頼られる力を自覚的に育むことが必要。

●レジリエンスの向上には、自分の身体を使って学びを深めることが必要。学校の強みは、生身の身体で活動できること。

●こどもが頑張って挑戦したら、先生がほめるという方向付けが必要。

6 教職員

◎ゆとりを持って働けるなど、教職員のウェルビーイングの確保が教育の根本。

7 地域等との連携

◎人間同士のつながりの中にある安心感・承認感・肯定感が大事であり、その根底には「安全・安心な居場所」があること。

○自治会・地域とも連携し、学校が「膨らみのある巣」のようになれるとよい。